



CAJLE Newsletter

NUMBER 66 JUNE 2023

カナダ日本語教育振興会

Canadian Association for Japanese Language Education

目次

会長の言葉	1
年次大会報告案内	2
CAJLE 活動報告	4
カナダ全国日本語弁論大会	
日本語教師情報交換会	
CLD★レツトーク	
継承語オンラインネットワーク	
連載「セカイの日本語～わたしの声～」	
ジャパンボウル	8
オンタリオ	
ブリティッシュコロンビア	
特集「プロフェッショナル」	10
国際交流基金コーナー	12
CAJLE よりお知らせ	13
2022 年下半期活動報告	14
編集後記	15
会員規定	16

Editors: Hiromi Aoki,
Ihwa Kim (Chief),
Tomoko Bailey Ujie

Copyright©CAJLE 2023

会長の言葉

CAJLE 会長 木村美香

日差しが強くなり夏を感じられる季節となって参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナ関連の規制も大きく緩和され、街中では以前と同じように気兼ねなく友人とカフェでお喋りしたり、スポーツを楽しんだりしている人々の姿が見られます。また日本語教育の現場も対面授業に戻り、学習者がクラスメートと楽しそうに会話練習をしている姿を見ると笑みが溢れてしまいます。皆様もこのような日常の変化を心嬉しく思っているのではないのでしょうか。同様に CAJLE の活動にも嬉しい変化が見られますので、ここで少しだけ紹介させていただきます。

まずは、本年度の年次大会です。2019 年のビクトリア大会以来、2021 年と 2022 年はオンライン開催となった年次大会ですが、本年度は 4 年ぶりにモントリオールで対面開催になります。オンライン開催時は遠隔地からも参加できるという利便性のおかげで多くの方にご参加いただきましたが、今回の大会は実際に会することで熱い意見交換、コーヒーブレイクや懇親会を通しての交流、またコロナ禍でオンライン上でしか会えなかった方々との再会等、オンラインの時とはまた違った充実した時間を過ごしていただけたと思います。また、その他にも CAJLE が共催させていただいているカナダ全国日本語弁論大会もトロントで対面で開催され、地区大会を勝ち抜いた参加者がトロントに一堂に会し競い合い、お互いの健闘を称え合いました。また BC 州バンクーバーでも地域研修会が対面で行われました。CAJLE では、地域のニーズに合った研修会を促進するため補助金制度を準備しておりますので、ご興味がある方はご相談ください。

新しい試みとしては、「CLD★レツトーク」というイベントが行われました。CAJLE ではこれまで継承語教育関係者の教師、保護者向けのワークショップ等を開催してきましたが、このイベントはカナダに住む日本語話者の若者のために何かイベントができないかという思いから始まりました。2023 年秋には CLD (Culturally Linguistically Diverse youth) festival という世界の日本語話者の若者を繋ぐイベントが開催され、現在「CLD★レツトーク」に参加してくれた高校生が他の国の若者と協力し、CLD festival 開催に向け準備してくれています。是非、皆様の周りにいる CLD の若者にも参加を呼びかけていただけますようお願いいたします。

最後になりましたが、CAJLE のウェブサイトが本年度より一新され、これまで以上に大会情報等にアクセスしやすくなりました。忙しい中作業をしてくれた理事のメンバーに感謝したいと思います。今後もより使いやすいウェブサイトの構築を目指していきますので、コメント等ありましたら、お聞かせください。

これまでコロナ禍のもと様々な困難やチャレンジもありましたが、その経験から新たな可能性も感じながら CAJLE は活動を続けて参りました。その姿を是非このニュースレターでお楽しみください。また、年次大会では皆様にお会いし懇談できるのを楽しみにしておりますので、会場ではぜひお気軽にお声がけください。それでは 8 月にモントリオールで！

－ CAJLE 2023 年次大会のご案内 －

大会実行委員長 相津頼子・犬塚久美子・畠山衛



Place Jacques Cartier, Montreal. PHOTOGRAPH BY TOURISME MONTREAL, STEPHAN POULIN

日時：2023年8月17日(木)－18日(金)

会場：Best Western Ville-Marie Montreal Hotel & Suites (ケベック州モントリオール)

本年度のCAJLE年次大会は、「これからの日本語教育：多様化する社会とともに」というテーマのもと、日本語教育の原点に立ち返り、これまでの実践を批判的に振り返りながらカナダにおける日本語教育の目指すべきことを見つめ直す機会としたいと考えています。ここ数年は、コロナ禍によるオンラインへの緊急対応という試練を乗り越え、さらに対面での指導への再適応を余儀なくされるという変化の激しい期間でした。教育環境は、今後も予想できないような時代の変化の影響を受ける可能性がなくなったわけではありません。また、日本語そのもの、学習者、教材、教員を含めた社会の多様性は増していき、そこに目を向け対応していくことがより重要になっています。このような状況下で教師がさらに成長を続けていくためには、これまで当たり前なこととして受け入れてきたことを一度立ち止まり考え直す必要があると思われます。そこで、本大会では、招聘講師の先生方による講演や教師研修、そして参加者の方による研究発表や意見交換を通し、これからの日本語教育について考察を深めたいと考えています。

基調講演と教師研修に、文化人類学者として広く文化、言語、教育について批判的視点から研究なさっているラマボ大学准教授のドーア根理子先生をお招きします。ドーア先生の基調講演『「日本語」再考：言語の「ユニット思考 (unit thinking)」を超えて』、そして教師研修『「日本語」「間違い」「通じる」って何?：標準語を超えた多様な言語教育を目指して』を通して、日本語教育の原点に立ち返り、その対象である「日本語」の概念や、教師による学習者の日本語評価というものを再考していきたいと思えます。また、多様性を育む豊かな言語を教えていくことを念頭に、具体的な教材や教育実践について検討することを目指し、参加者同士の意見交換も図って行く予定です。さらにニューヨーク市立大学ハンター校講師の櫻井陽子先生と第二言語教師会 (Canadian Association of Second Language Teachers: CASLT)派遣講師のフィリッパ・パークス先生 (シャールブルック大

学)にもそれぞれのご専門から教師研修を行っていただきます。櫻井先生には、『学習者が「できる(Can-Do)」を実感する教材作成 - 課題遂行型アプローチ再考 -』と題し、近年取り上げられている課題遂行型アプローチを見直し、それを可能にする教材作成方法を実践的に研修していただきます。そして、パークス先生には、『言語教室における多様な教授法：異なるスキルレベルに対応する戦略とは』という教師研修で多様化する学習者に対し、教師ができる事、目指す事などについて、日本語とは異なる言語教育環境の立場から実践的なお話をしていただく予定です。

4年ぶりの対面での開催となる本大会は、参加者皆様が活発に交流し、教師間ネットワークの構築、親睦が図れるような場になるはずです。また組織・地域を越えて日本語教育界の横の繋がりを広げ、教育実践の見聞を広め刺激を受けあう場として新たな一歩を踏み出す年次大会の開催を目指したいと思います。

大会プログラム、参加申し込みの詳細はCAJLE大会ウェブサイトにて6月初旬にお知らせいたします。8月にモントリオールで多くの方にお会いするのを楽しみにしています。



CAJLE TWITTER フォローお願いします！

@CAJLE_ACELJ

日本語教育関係の情報について発信しています。

– CAJLE 活動報告 –

CAJLE よりカナダ全国日本語弁論大会、日本語教師情報交換会、CLD★レッツトーク、継承語オンラインネットワークの4つの活動をご報告し、日本語教育グローバルネットワークプロジェクトの連載記事をお届けします。

—編集部

第34回カナダ全国日本語弁論大会開催後記

大会実行委員長 小室リー郁子

2023年3月26日国際交流基金トロント日本文化センターにて、全国大会組織委員会とCAJLEの共催事業である第34回カナダ全国日本語弁論大会を開催いたしました。今回会場となったのは、ちょうど3年前新型コロナウイルスの影響で町がロックダウンとなり、急遽オンライン開催に移行せざるを得なくなったため本大会の実施が叶わなくなった場所でした。この度、その同じ場所にカナダ各地からの出場者を迎え、彼らの笑顔と熱気を肌で感じたとき、関係者一同胸に熱いものがこみ上げてくる思いでした。

大会では例年通り、カナダの7つの地区大会にて初級・中級・上級・オープンの4つのカテゴリで第一位を受賞した出場者たちが、それぞれのスピーチを披露してくれました。日本語という学習言語を使って、自分の経験や思いのたけを語る彼らは、だれもが堂々としていて、心の底から声援と拍手を送りたい気持ちになりました。今回は、未だ新型コロナウイルスの感染が心配される中であつたため、会場には関係者のみが集まり生配信を行うという形での実施でしたが、大会後出場者と視聴者が回答したアンケートには、ハイブリッド形式を評価する声が寄せられました。パンデミックを経て「配信」という選択肢を得た今、今後どのように大会を開催していくかを考える必要性が生まれてきていることを感じました。

本大会は、会場を提供してくださった国際交流基金トロント日本文化センターをはじめ、在トロント日本国総領事館、高円宮センター、三井カナダファウンデーション、そしてトロントの多くの企業・団体のお力添えがあつて実現いたしました。本大会の意義にご賛同くださり、あたたかいご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



(写真：NJSC Organizing Committee)

日本語教師情報交換会 開催報告

田中香織（ブリティッシュコロンビア大学）

2023年5月13日（土）、ブリティッシュコロンビア大学（UBC）を会場に、BC州日本語教師情報交換会が開催されました。本情報交換会は国際交流基金トロント日本文化センター（JFT）とUBCによる共催事業として、CAJLEの地域研修会支援金による協賛も得て行われました。

当日はBC州内の高校と大学で日本語教育に携わっている教師を中心に、約30名の方々にご参加いただきました。会は途中1時間半の懇親会を含む6時間のプログラムで、午前と午後の部に分かれ、午前は発表、午後はグループに分かれて情報交換やディスカッションが行われました。午前の部には在バンクーバー日本国総領事館の長谷川専門調査員もご出席くださいました。

午前の活動は合計6名の発表者による、以下のテーマでの発表で構成されました。

- ・2021年度海外日本語教育機関調査の概要
- ・中等教育機関で取り入れられることになったセメスター制度についての紹介
- ・中等教育機関における国際バカロレア (IB) プログラムとアドバンス・プレースメント (AP) プログラムの概要と評価
- ・高等教育機関における受け入れ制度の例 (UBCにおける日本語プログラムの概要)
- ・アルバータ州の高校プログラムと大学の受け入れについて

各発表からは高大連携を考える上で欠かせない互いの制度についての知識を得ることができた他、アルバータ州教育省にいらっしゃる国際交流基金の吉川景子先生にはお隣のアルバータ州の状況も教えていただくことができました。

午後は、まず同じ教育段階の教師による情報交換、次に異なる教育段階の教師間の情報交換、最後に「異なる教育段階や機関の間で協力できることがあるか」をテーマにしたディスカッションを行いました。最後のシェアリングの時間には各グループから様々な具体的な「協力したいこと・協力できること」のアイデアが共有されました。

やっと対面で行うことが可能になった情報交換会。会の活動自体の時間に加え、開会前や休憩中、そして閉会後にも、会場のあちこちで同時にコミュニケーションが発生し、交流が深まることも、対面式でこそ可能になる重要な部分であったと思います。距離を問題としないオンラインもいいですが、対面式もやはりいい。今後とも、どちらの良さも活かしつつ、このような情報交換会を続けていきたいものです。

この度は地域研修会支援金によるご支援、ありがとうございました。



午前の部：発表



午後の部：グループ活動

（上掲写真提供：UBC / Japan Foundation, Toronto）

CLD🍁レッツトーク 開催報告

CLD🍁レッツトーク実行委員会

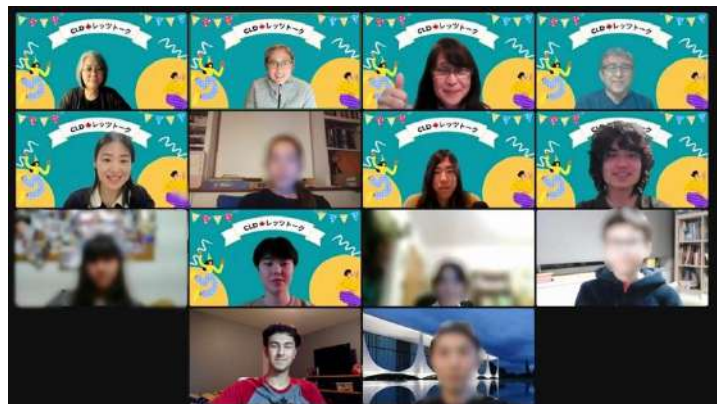
CAJLE は、カナダにおける継承語としての日本語学習を支援・推進することを一つの活動指針として、最近では、学習者向けの活動を始め、若者たちの日本語学習をサポートしています。その一環として、2023年2月20日に、カナダに住む若者の日本語話者のためのオンラインイベント「CLD🍁レッツトーク」を開催いたしました。このイベントは、カナダ在住の日本語を話す若者が交流し、互いに知り合う場を提供することを目的としています。

今回は、4名の高校生の話題提供者と、5名の若者がカナダ中から参加しました。アイスブレイクで共通点を探した後、食べ物、音楽、漫画から、若者に興味のある話題を提供しました。参加者からは、「いろいろな人と話せて楽しかったし、他人のことを知ったりするのも楽しかった」、「アイスブレイクもとてもうまくいったし、メインの会話もとても充実したものができた」というような、楽しい時間を過ごせたという声が多く寄せられました。

今回のCLD🍁レッツトークは、11月に行われるCLD festivalのプレイベントという位置付けでした。CLDは、Culturally and Linguistically Diverse youthの略称で、CLD festivalと呼ばれるイベントは世界中にいる文化的・言語的に多様性を持つ日本語話者の若者をつなぎ、交流を深めるため毎年開催されています。

今年11月のCLD festivalは、CAJLEがCLD festival実行委員会と共催いたします。世界中から多くの若者が参加するこのイベントは、カナダの若者にとっても文化的・言語的多様性を体感し、お互いの考え方や価値観を共有する貴重な機会です。また、現在カナダの若者ボランティアたちが世界中の若者と一体となって、次回のイベントの企画に取り組んでいます。これからもCAJLEは、若者たちが主体となり、地域や文化を越えた交流が広がるよう支援していきます。

CLD festivalへの申込方法等に関しては、後日お知らせいたします。たくさんの方のご参加をお待ちしています。



CLD🍁レッツトーク集合写真

継承語オンラインネットワーク

張硯君

CAJLEの継承語オンラインネットワークは国際交流基金トロント日本文化センターと共催で、継承語教育機関・グループをつなぐネットワークを作り、情報・ノウハウの共有、相談ができる場として、2019年より継承語オンラインネットワークを開始しております。現在は年に2回オンラインでのワークショップを行っております。

「継承語としての日本語学習者の体験談」をテーマとした第8回の集まりを12月10日に開催いたしました。当日は、カナダ在住の学習者、先生方、関係者、保護者の方々を対象に、継承語としての日本語学習者の体験談についてのパネルディスカッションが行われました。カナダ在住の3人の日本語学習者が参加し、それぞれが日本語を習得する上での困難や成功体験、自分なりの工夫やアドバイスなどを共有しました。その後の質疑応答では、参加者からの質問に答えることで、より具体的なアドバイスを参加者と共有することができました。参加者から「それぞれ環境の違う3人の話を聞くことができ、とても勉強になった」などの声があったように、今回のイベントでは、継承語としての日本語学習者や教育者が課題やアドバイスを共有し、保護者の方々にとっても子どもたちの学習環境や課題について理解を深めることができました。

次回の集まりは6月10日を予定し、継承語に関わる日本語教師と保護者の方をお招きして行います。日本語を継承語として学ぶ子どもたちは夏休みになると学習環境が変わり、学習意欲が低下することがあります。そこで、次回の集まりでは、教師と保護者の方々が、夏休み中に子どもたちが楽しく学べる日本語学習の方法やアクティビティについてアイデアを出し合い、共有することを目的としています。参加ご希望の方は、以下の申し込みフォームよりお申し込みください。

第9回継承語オンラインネットワーク
日時：2023年6月10日(土)午後8時～9時30分(東部時間)
要事前申し込み：<https://tr.jpf.go.jp/event/keishogo9>

— 日本語教育グローバルネットワークプロジェクト —
連載「セカイの日本語～わたしの声～」 (全5回)
第4回 私の学び
津田麻美 (上智大学)



CAJLEのGNプロジェクトでは、日本語や日本語話者の多様性への意識を広げるため「セカイの日本語～みんなの声～」(<https://sekainonihongo.com/>)というウェブアーカイブで様々な日本語話者の声を届けています。

この5回に渡るシリーズでは、プロジェクトに関わっている私たちメンバーが、プロジェクトで感じたこと、気づいたこと、考えたことなど振り返り読者の皆様と共有の場を設けたいと考えています。

東京で私の娘が通っているのは、ごく普通の区立幼稚園だが、外国籍の親御さんを持つ子供たちも沢山いる。しかし、幼稚園のしおりやお便りをはじめ、お迎えの時に先生が話してくれるその日の出来事なども全て日本語である。私は海外で過ごした期間が長いこともあり、そのような時に通訳をする機会も多いのだが、そんな中、何度もハッとさせられることがあった。

例えば、娘が夕方までお友達と遊んでいた時のことだ。私が住んでいる地域では、夕方5時になると「夕焼け小焼け」が流れる。それを聞いて「カラスが鳴いたから帰ろう」と娘に声をかけた時、一緒に遊んでいたお友達のお母さんが「どういう意味？」と聞いてきた。そのお母さんは中国出身で、日常会話などは日本語で問題なくできるが、童謡や昔話などは全く知らないため、なぜ皆が「カラス」というのか不思議に思っていたと言った。それまで、手紙や大事なお知らせを訳すことはあっても、子供が歌っている歌やお遊戯について話したことがないなど、その時に気がついた。

また、あるイタリア人のお父さんは、日本語があまり分からないのだが、ある日「困っていることがある」と言う。てっきり日本語のことかと思っていたら「イタリアではよく子供を招いてピザを作るパーティをしていたが、日本でもそのようにお友達を招待しても大丈夫か、変だと思われないか」という相談だった。理由を聞くとそのお父さんが心配していたのは、日本語が分からないことではなくて「自分が外国人であることで、子供がお友達と遊ぶ機会を奪ってしまっているのではないか」ということだった。

身近にいる外国人が「困っている」というと、つい「言語」に結びつけて考えてしまいがちだ。特に、職業が日本語教師であると、どうしても言葉の方に意識がいくってしまう。しかし、思い返してみると、自分が海外に住んでいたときに分からなかったのは、もちろん言葉だけではなかった。また「セカイの日本語～みんなの声～」で行ったインタビューを振り返ってみても「人を助けようと思って（自国の文化とは違って）日本人はそれを恥ずかしがるから、自分も恥ずかしくなってきた」というイエメン出身のヘンドウさんの話などからも分かるように、本当の多様性を考える上では、言葉の後ろに広がる、その人の持つ文化的価値観や経験が大きな意味を持っている。「日本語の多様性」について常日頃から考えているつもりでも、まだまだ無意識のうちに「日本語がよく分からない＝言語的な助けが必要」だと勝手に気負っていた部分があるのかもしれないと考えさせられた出来事だった。結局、娘は「夕焼け小焼け」の代わりに中国語の歌を覚えてもらい、イタリア人のお父さんお手製のピザも何度もご馳走になった。彼女の周りの多様性のおかげで、幼い娘の世界もまた広がっている。



このプロジェクトを通して、セカイの日本語話者の「声」に触れ、そこから「自分の中の多様性」「自分が様々な日本語話者をどのように受け止めているのか」についても思いを巡らせることができた。これは、この先もずっと続いていく私自身の学びであると思う。このプロジェクトが、他の誰かにとっても、同じような気づきや学びの一助となれば、大変嬉しく思う。

本号の記事を読み、考えたことや気づいたこと、ご自身が日頃から行なっていることなど、皆さんの声もぜひこちらからお聞かせください。 (https://padlet.com/kazuhiro_yonemoto/sekainonihongo)

ジャパンボウルがオンタリオ州とブリティッシュ・コロンビア州で開催されました。
その様子をご報告いただきました。—編集部

— 第6回ジャパンボウル・オンタリオ大会開催後記 —

ジャパンボウル・オンタリオ 実行委員会

2023年3月18日、Huron University・Japan Societyの共催により第6回ジャパンボウル・オンタリオ大会を開催しました。ジャパンボウル®とはワシントンDC日米協会が1992年に設立した日本語・日本文化の知識を競うクイズ形式の大会で、現在カナダでは、バンクーバー（BC州）とロンドン（ON州）の2カ所で高校生を対象に開催されています。今回のオンタリオ大会は、オンラインで開催され、オタワ・トロント地域の12校に所属する14名の高校生が集いました。

ジャパンボウル大会は、3人1組のチームで競い、予選を勝ち抜いた上位3チームが決勝戦に進みます。言語のみならず日本の文化、社会、日常生活、歴史、地理、時事問題に関して出題されます。今年は特に飛鳥時代から安土桃山時代、環境問題、マンガ、四国・中国地方についての問題が出され、決勝戦の言語問題では、与えられた擬声語・擬態語を参加者が体で表現するという問題も出題されました。いくつかの難問にもチーム一丸となって奮闘する様子が見られました。また決勝戦では、一問正解するたびにガッツポーズをする参加者の姿があり、このイベントにかけ熱い思いも垣間見ることができました。文化ワークショップでは、参加者は他校の高校生とも交流します。今年の文化ワークショップではZoomのブレイクアウトルームを使って、ヒューロン大学



で日本語を学ぶ大学生が日本語の日常会話の表現を教え、カケハシプロジェクトに参加した大学生が体験発表をしました。参加者の中には昨年に引き続き参加した高校生も多く、来年も参加したいという声もあり、大会を楽しみにしてくれていることを大変嬉しく思います。この大会が少しでも高校生の日本語学習へのモチベーションに繋がることを願っております。この度の開催をご支援くださった、在トロント日本国総領事館、国際交流基金トロント日本文化センター、また、ご指導くださった高校の先生方、審査員の方々、そして、スポンサーの皆様にご心より御礼申し上げます。本大会の詳細は、[Japan Society](#)のウェブページをご覧ください。

写真：大会の様子

– The 6th Annual Metro Vancouver Japan Bowl –

JET Alumni Association of BC and Yukon JET プログラム同窓会 (BC & Yukon 支部)

On March 11, the 6th Annual Metro Vancouver Japan Bowl (MVJB) quiz competition for high school students interested in Japanese language and culture was held at the Nikkei National Museum and Cultural Centre in Burnaby. Nearly 80 students from 14 schools around the Lower Mainland participated in 27 teams of two or three, answering questions on Japanese language and culture topics such as history from 800 CE to 1600 CE, Shikoku and Chugoku regions, environmental issues and green technology, etiquette, current affairs, contemporary literature, and manga.

The Japan Bowl opening ceremony began with a koto performance by Pico Masaki, and a traditional 'rajio taiso' warmup. The competition was challenging, with students answering difficult questions in Japanese and English, and in the designated languages and writing systems. After the first preliminary round of 20 questions, the participants enjoyed a kyudo (Japanese archery) demonstration by Stephanie Mathura. Following the second round of questions and before a tasty bento lunch from Suzuya, participants enjoyed the first public performance and yosakoi workshop for all attendees by the dance group 'APPARE,' led by Yuhei Shimada.

In the afternoon, the competition culminated in a final 20-question head-to-head round in which the three top teams from the preliminaries competed on stage. While teams waited for the results to be tabulated, Steve Chevalier from the Consulate outlined several work and study programmes supported by the Government of Japan that will be available to students when they graduate.

The 'Katsudon' team from Centennial Secondary School in Coquitlam won the competition, with teams '4-ever' from Richmond Secondary school and 'Daikichi' from R.A. McMath Secondary in Richmond close behind. Consul General Kohei Maruyama of the Consulate-General of Japan in Vancouver offered his own humorous mini-quiz about the Consulate's history before congratulating the participants and expressing his gratitude to the BC-Yukon Chapter of the JET Program Alumni Association for organizing the event.

Finally, the event concluded with an ipponjime, bringing the successful Metro Vancouver Japan Bowl to a satisfying close.

The organizing committee led by JETAABC is thankful for the invaluable support from our Japanese partners (the Consulate of Japan in Vancouver, CLAIR, MOFA and the Japan Foundation, Toronto); more than a dozen community partners, and over 30 pre-event and day-of volunteers. We're looking forward to next year!



－ 特集記事 －

プロフェッショナル ～日本語のお仕事の流儀～

オンラインの研修会・ワークショップが増え、カナダ・世界のどこにいても参加できるチャンスが増えましたが、対面の会とは違い皆さんとお互いにお話する機会がなかなかありません。ニュースレターのこの欄で、「よくお名前を Zoom でお見掛けするあの方」「研修会でお話を伺ったあの先生」がどのような方なのかを会員の皆様にご場でご紹介させていただければと思います、先号より編集部がインタビューをさせていただく企画を開始しました。第2回の今回はカルガリーから石川先生、今年の年次大会が開催されるモンリオールから池田先生をご紹介します。—編集部

カルガリー大学 石川比奈子先生

<https://www.ucalgary.ca/>

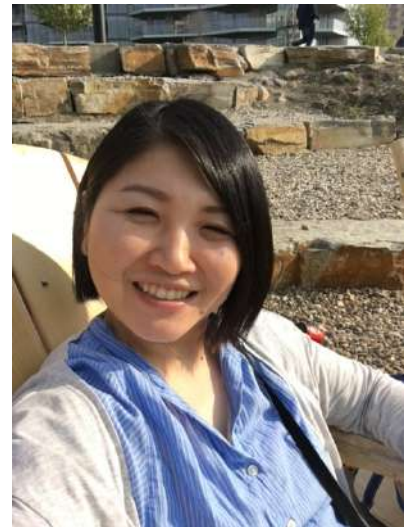
Q：お住いの所や勤務校についてご紹介をお願いします

私の住んでいるカルガリーはロッキー山脈まで車で1時間半ぐらいのところにあります。バンフやキャンモアまで気軽にハイキング行ったり、時にはBCの温泉リゾートに足を伸ばすこともできます。勤務校であるカルガリー大学の日本語プログラムは、留学生はあまり多くなく、地元の様々なバックグラウンドの学生が中心で、とても多様性があります。また、このプログラムでは、毎年開催される文化体験イベントを通じて、学生に様々な

日本文化に触れてもらっています。これまで、VR や書道、食文化の体験イベントや硬筆コンテストなどが行われました。

Q：日本語教師になったきっかけは何ですか

私はカナダで初めて日本語教師になりました。元々は日本で英語講師をしていたのですが、縁あってアルバータ大学で事務員として働くことになり、同時に大学院に通いながら成人教育を専門に勉強していました。当時は日本に帰ってまた英語を教えるつもりでしたが、ある時日本語のクラスについて知る機会があり、それから日本語を教えるという将来の選択肢も視野に入れ、勉強のつもりでアルバータ大学の日本語プログラムで1年間ボランティアアシスタントをさせてもらいました。また、アルバータ大学には無料で外国語を教える大学生のグループがあって、そこでも日本語を教えながら経験を積んでいきました。そして2011年にご縁をいただいて、日本語プログラムで一クラス担当させてもらえることになったのが、大学での私の日本語教師としての第一歩です。それから3年教えてからカルガリー大学に移り、今に至ります。



Q：今取り組んでいらっしゃるプロジェクトについて教えてください

カルガリー大学の Taylor Institute for Teaching and Learning という部署が中心になって、VR を使った教育に興味がある教師が集まったプロジェクトに参加しています。私のような語学教師、教育学部の教師やエンジニアなど、様々な専門分野のメンバーと一緒に、VR をどのように教育や学習に役立てることができるのかを研究実践するプロジェクトです。また、私は日本語を教えるかたわら、Google for Education Certified Trainer として、各地で Educational Technology の研修も行っています。新型コロナウイルス感染対策で授業がオンラインになったときは、多く先生方が Educational Technology を学ばれたと思うんですが、対面に戻った今、皆さんはどのような教室活動をしていらっしゃるのでしょうか。もし、この記事を読んでいらっしゃる先生方の中に、Education Technology の使用について悩んでいる方がいらっしゃったら、私で何かお手伝いできることがあるかもしれないので、ぜひお声がけください。

Q：お休みの日には何をしていますか

最近 Audible にハマっています。家事や運転中、ちょっとしたスキマ時間を使って色々なジャンルの本を聞いて楽しんでいます。耳読するようになって、日常生活に「学習」をプラスすることができ、毎日が少しだけ豊かになったと感じています。

Q：日本語教員でなければ何をしていますか

音楽関係の仕事につきたいです。私は3歳の頃から高校までなんとなくエレキトーンを続けましたが、今考えると自分でもどうして音楽をやっていたのかわかっていなかった気がします。ただ、音楽で自分を表現することは好きだったので、もう一度人生をやり直せるなら、もっと自主的に音楽の道に進めたらと思います。オーケストラに入って、仕事としてみんなで作る一つの音楽を作り上げていたり、路上ライブでピアノを弾いたり、そんな仕事ができたらワクワクしますね。

マギル大学 池田朋子先生

<https://www.mcgill.ca/>

Q：お住いのところやご勤務先の紹介をお願いします

モンリオールはフランス文化の影響が濃い街ですが、大学の近くは学生の街で少し違った雰囲気があります。キャンパスはダウントウンの中にあり、レストランやお店が近くとても便利です。その反面、大好きな山が近くになくて残念なのですが、大学の裏に丘のような小さな山があるので走りにいたりしています。大学の日本語プログラムには1年次から4年次のコースがあり、一年間の登録者数は200人を超えます。レベルの間にライティングコースがあり、継承語として日本語を話す人などのバックグラウンドがある学生を受け入れるコースも

あります。



Q：日本語教師になったきっかけは何ですか

もともとは中学校で理科の教員をしていて、その後ワーキングホリデーでバンフに来ました。その時、スキーばかりしていないで他に何か勉強しようと思い、日本語教育の通信教育コースをとってみました。そして通信教育だけでは実際に教えることはできないと思い、より実践的な日本語教師養成講座に通って教育実習なども経験しました。その後日本に帰国して日本語教育の道に進むために大学院を修了し、日本やタイの日本語学校や大学・大学院で教壇に立ちました。その後モントリオールに来て10年になります。

Q：今はどんなことに取り組んでいらっしゃいますか

「セルフスタディープロジェクト」と呼んでいる活動をここ数年クラスに取り入れています。もともと言語の独習者の研究をしているんですが、モントリオールに来てから出会う独習者のレベルが日本やタイでは見られなかったくらい高いことに驚きました。そんな学習者がクラスに入るとクラス内のレベルに差ができるのですが、逆

にそのような人たちの知恵を借りながらコースワークの一部としてセルフスタディーを取り入れています。何をやっても途中で変更してもよく、教員は毎週何をやっているかは簡単にチェックをしますがアドバイスはあえてしません。ノート作成、シャドーイング、アニメやドラマを使ったり様々な勉強方法を工夫して、最後にどんなことをやったかを発表します。北海道の大学で同様のセルフスタディーをやっている英語のクラスと協働し、どんなことをやっているか学生同士が共有するような活動も行いました。カナダと日本の学生の学習方法や性格の違いも明確でとても参考になりました。

Q：お休みの日は何をしていますか

休みも基本的には仕事をしているので、うちにいる「大型猫」と遊ぶくらいです。でも長い休みがあれば旅行によく行きます。こちらに来てからは南米が近いのでペルーやボリビアに行きましたし、アジアでは東南アジアやネパールも旅行しました。山歩きが大好きなので、日本に帰るときにトランジットのついでにロッキーに「ちょっと寄って」山を歩いてから帰ることもあります。

Q：日本語教員でなければ今、何をしていますか

もしあの日バンフから動くことがなければ、ハイキングガイドをしているのではないかと思います。でも、もし中学時代からやり直せるなら、ドラマの「グレイズ・アナトミー」が好きなので、外科医を目指してがんばっているんじゃないかと思います！

国際交流基金コーナー

国際交流基金派遣専門家の離任

吉川 景子

(アルバータ州教育省日本語教育アドバイザー・国際交流基金派遣日本語上級専門家)

2020年8月末に赴任して、早2年9ヶ月。コロナ禍での赴任、オンライン、リモートワークでの業務の始まりで、どのように先生方と関係を構築していくのか、変わりゆくニーズにどう応えられるのか、不安の中で任期をスタートしましたが、みなさまの温かいサポートを受けながら、コロナ禍の日本語教育、そしてアフターコロナの日本語教育について、いっしょに学び、話し合う機会が持てたことに、心から感謝いたします。エドモントン、オタワの年次大会は残念ながらオンライン開催となり、任期中、カナダで実際に対面でお会いできた先生は限られてしまいましたが、オンラインのおかげで、カナダ各地の先生方に複数回お会いする機会も多く、もしかしたら、過去の専門家の中で一番多く、カナダの先生方にお会いできたのでは??と思っています。

オンラインのおかげで、どこにいてもつながれるようになりました。カナダの任期は終わりますが、これでお別れではなく、これからもいろいろなオンラインの場でお会いする機会があると思います。ですので、これからもどうぞよろしくお願いいたします!



ひきだすにほんごコンテンツライブラリー

「ひきだすにほんごコンテンツライブラリー」は、日本語学習番組「ひきだすにほんご Activate Your Japanese!」(以下「ひきだすにほんご」)を授業で活用しやすくなる便利なコンテンツを提供するサイトです。

このサイトでは、コーナー別に動画を見ることができ、授業や日本語学習に役に立つコンテンツをダウンロードすることもできます。また、授業で動画を見せるのに便利な機能もたくさんあります。

このサイトを通じて、多くの先生たちに「ひきだすにほんご」を活用していただけたらうれしいです。

ひきだす日本語コンテンツライブラリー:

<https://www.hikidasu.jpf.go.jp/>

日本語学習者用イベントページ



「JFT バーチャル学習スペース」(カナダの日本語学習者が、無料で授業以外の時間にスピーキングの練習をしたり、毎週の課題をこなしたり、ゲームをしたり、リラックスしたり、一緒に勉強したり、一人で勉強したりできるオンラインスペース。要登録)の登録情報、日本語学習リソースやイベント情報を提供しています。

<https://tr.jpf.go.jp/language/learner-events/>

– CAJLE よりお知らせ –

地域研修会支援金について

REGIONAL WORKSHOP/MEETING SUPPORT FUND

2014年10月に始まったCAJLE地域研修会支援金は、カナダ全域の日本語教育活性化につながる活動を支援するための助成金です。これまで国内のさまざまな地域において研修会・情報交換会が実施されてきました。会員自らが企画する地域のニーズに応じた教師研修や教師間のネットワーク作りを支援いたします。お申し込みの詳細は[こちら](#)をご覧ください。また、Zoomなどの使用により地域活動もこれまで以上に多種多様になっているため、対象経費項目の見直しを行い、経費として認められる項目も増えました。地域研修をお考えの方はCAJLE広報までお問い合わせください。皆様からのお申し込みをお待ちしております。（広報:cajle.pr@gmail.com）

In October 2014, CAJLE introduced the Regional Workshop/Meeting Support Fund, and this has allowed broad-ranged activities that assist with the growth of Japanese language education in Canada. Workshops have been held in various regions. This fund will enable members to plan and create their own instructor training, as well as networking meetings that suit regional needs. Please see the [website](#) for more information. In addition, since regional activities have become more diverse than ever with the use of Zoom and other tools, we have reviewed the eligible expense items and increased the number of items that can be reimbursed. If you are considering regional training, please contact CAJLE Public Relations. We look forward to receiving your application. (Public Relations: cajle.pr@gmail.com)

CAJLEの活動とその信頼性や公正性について

CAJLE'S ACTIVITIES AND ITS CREDIBILITY AND FAIRNESS

CAJLEでは私たちの活動の信頼性や公正性を確保できるよう取り組んでいます。

CAJLE is committed to ensure the credibility and fairness of all participants in our activities.

– CAJLE2022年度下半期活動報告 –

書記 ベイリー氏江智子・張硯君

理事会担当報告及び承認事項

2022年	
11月7日	CAJLE2022年次大会のProceedingsをウェブに掲載
11月16日	第7回オンライン臨時理事会開催
12月1日	広報部よりニュースレター65号発行
12月7日	ICJLE全体会議 <ul style="list-style-type: none"> 会長木村氏参加、カナダ側(CAJLE)からの提案を報告
12月10日	GN全体会議

	<ul style="list-style-type: none"> ● 木村氏参加、各部署より進捗状況を報告
12月10日	第8回継承語オンラインネットワーク開催 オンラインで実施 <ul style="list-style-type: none"> ● テーマ：継承語としての日本語学習者の体験談 ● 共催：CAJLE、国際交流基金トロント日本文化センター
12月14日	第8回オンライン定例理事会開催
2023年 1月1日	新ウェブサイト移行およびCAJLE会員登録有効期限変更が実施済
1月14日	GN全体会議 <ul style="list-style-type: none"> ● 木村氏参加、各部署より進捗状況を報告
1月14日	CLD Festival 2023 企画会議 <ul style="list-style-type: none"> ● 木村氏、伊東氏、ベイリー氏、張氏が参加 ● 日程：11月5日日本時間午前10時&午後9時、各2時間でオンライン開催
2月8日	第9回オンライン定例理事会開催
2月20日	CLD🌟レッツトーク開催 オンラインで実施
3月1日	CAJLE2023年次大会の発表応募を開始
3月26日	第34回カナダ全国日本語弁論大会開催 <ul style="list-style-type: none"> ● 国際交流基金トロント日本文化センターにて対面で開催 ● 共催：カナダ全国日本語弁論大会組織委員会、CAJLE
4月12日	第10回オンライン定例理事会開催

編集後記

◆ 世界が一変した2020年から3年目の春を迎えました。人の移動やマスクの着用ルールなどがコロナ前の状態に戻りつつあり、皆様も今年の桜や新緑を違う気持ちでご覧になったのではないのでしょうか。今号では弊会の活動も全面的または一部対面に戻ったことをご報告させていただくことができました。8月の年次大会も対面で行われます。久しぶりに皆様と直にモントリオールでお目にかかれるのを楽しみにしております。広報：あおき・きむ・ベイリー

CAJLE ニュースレター編集部ではコメントや日本語教育に関するご意見など皆様からの投稿を歓迎します。お気軽に編集部 CAJLE.PR@gmail.com までメールをお寄せ下さい。

CAJLE newsletter editorial board welcomes comments and opinions that address issues related to Japanese language education. Please email us at CAJLE.PR@gmail.com

カナダ日本語教育振興会

Canadian Association for Japanese Language Education

P. O. Box 75133

20 Bloor St. East Toronto, Ontario M4W 3T3 Canada

Web: <https://www.cajle.ca>

会員規定 - Membership

カナダ日本語教育振興会は、カナダにおける日本語教育の発展と向上を目指す非営利組織です。日本語教育に関心のある方ならどなたでも会員として登録することができます。

会員特典

- ・カナダの日本語教育情報満載のニュースレター(年2回発行)
- ・日本語教育関係の各種ご案内
- ・年次大会、勉強会、その他の催しの参加費割引
- ・CAJL ジャーナル CAJLE (査読付き) への投稿資格
- ・年次大会での研究発表資格
- ・The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) 会員登録の割引適用：年会費 \$15 (通常\$45)

会費年度

2023年1月1日より、会員資格は、年会費の支払日から、1年または3年間有効となりました。

会員の種類

一般会員 (1 年)	\$ 45 CAD
一般会員 (3 年)	\$ 120 CAD
学生会員 (1 年)	\$ 30 CAD
組織会員 (1 年、4 名まで*)	\$ 120 CAD

*全員が同じ組織に所属していること。4名を超える場合、以降1名追加ごとに\$30お支払いいただきます。

CAJLE ホームページの[メンバーシップページ](#) (About us) より、オンラインにてお申し込みいただけます。

小切手もしくは銀行振込によるお支払いをご希望される方は、

会員申込書をご記入の上、メールまたは郵送でお送りください。

申込書、お支払い方法についてはホームページをご覧ください。<http://www.cajle.ca>

申込先：
Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

※連絡先の変更

住所およびメールアドレス等の変更があった場合にはこちらまでお知らせください。cajle.kaikei@gmail.com

CAJLE is a non-profit organization which actively promotes Japanese language education in Canada. We welcome everyone who is interested in Japanese language education.

CAJLE membership entitles you to:

CAJLE membership entitles you to:

- Receive the CAJLE Newsletter full of information about Japanese Language Education in Canada (two issues annually)
- Receive various announcements related to Japanese education via email.
- Attend the CAJLE annual conference, workshops and other related events at a reduced rate.
- Present research at the CAJLE annual conference
- Submit manuscripts for Journal CAJLE (peer-reviewed)
- Special rate for The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) membership. (Affiliate Individual Membership is \$15, instead of Regular Individual Membership \$45)

Term of Membership:

Starting on January 1st, 2023, membership will be effective for either 1 or 3 years from the date of payment.

Membership Categories:

Regular Membership (1 year)	\$ 45 CAD
Regular Membership (3 years)	\$ 120 CAD
Student Membership (1 year)	\$ 30 CAD
Institutional Membership (1 year, Up to 4 members*)	\$ 120 CAD

*All members must belong to the same institution. If there are more than four members desiring membership, each can be added by paying \$30 for each additional person.

Please visit our website and open "[Membership](#)" page through "About us". Please fill out the online form and complete the payment procedure through paypal. For those who wish to pay by personal check or bank transfer, please fill out the application form (available on www.cajle.ca) and mail or email it with the appropriate membership fee.

Mail to:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

Please notify us at the following email address if your contact information changes: cajle.kaikei@gmail.com.